

参考資料(東京大学, 植阪友理)

学習方略の指導: 小学校の具体例として

学習方略の指導が教育目標に明記されたのはとても嬉しいことと感じています(論点整理, 補足イメージ 1-②)。一方でこの点については, 十分に企画特別部会で議論しきれていない点と感じています。小学校段階からこんな指導が可能なのかという声もあるでしょう。

一方で, 実際にこうしたことに取り組んでおられる学校もあります。実際に, 公立小学校(大田区調布大塚小学校)において, 小学校2年生に学習方略を子どもに伝わるわかりやすく伝えている事例がありましたので共有させていただき, イメージを伝えられればと思います。この文書の末尾に示しました3つの学び方の工夫をご覧くださいければと思います。

なお, この指導を行った大田区調布大塚小学校宮下孔貴先生からは, 以下のようなコメントをいただいています。

「算数の授業では、単元終末に行う確認問題の時間を、1学期までは問題練習とだけの位置づけで取り組んでいました。

2学期からは、『理解度チェック』と位置づけ、「自分はどこができて、どこが分かっていないかチェックしてみよう。」「間違ってもいいから、何を間違ったか、どこが怪しいか、振り返ってみよう。」と声を掛け、取り組み始めました。そうすると、こどもたちも「テスト前のテスト」と言い出し、1学期と比べ、問題練習への意欲や丸付けに対しての真剣さが向上し、丸付けをする際に、1問1問にガッツポーズをするような子もいました。また、振り返りでは、1学期と比べ、文量も増え、具体的に記述する児童が増えました。中には、授業で取り上げた筆算を書き、自分が間違えやすい部分を示す子もいました。まだ、算数の1単元の中だけなので、今後も声掛け、様子を見ていこうと思いますが、こどもたちが学習の仕方を知り、意識することで、意欲も変化したように感じます。」

小学校2年生であっても、学び方を明示的に学ぶことで、学習意欲(学びが楽しい)にもつながっているという点は強調したいと思います。少しずつでも社会と共有できたらと思います。

なお, この事例では, 上述の言及からも分かるように掲示するだけではなく, 学校のさまざまな活動のなかでこれを意識しながら学習活動を進めています。

子どもによっては、理解度チェックや失敗活用までいけず、粘り強く反復するというこ
ともあろうかと思います。それでも、

「その中に、

- ・ かん字の意味を考えながら、
- ・ 計算の仕方を思い出しながら
- ・ さか上がりの動きのポイントをかくにんしながらくりかえし練習

すると、こうかアップ！」

という具合に、反復であってもどのような工夫をこめるとよいのかについて言及してい
ます。とても良い事例と感じます。

ぜひこの論点整理に従い、小さい頃から、学び方を育てるご指導をお願いしたいと思いま
すし、また、そうした新たな流れについても教員養成課程でも触れる機会を設けていただけ
ればと思っています。

東京大学 植阪友理

しっばい かつよう 失敗 活用

• まちがえた^{もんだい}問題を もう一度^{いちど} やってみる。

• なぜ間違えたか、なぜ失敗^{しっばい}したか、なぜ負^まけてしまったのか
考えてみる。

テストで間違えたから「ヤダー!」、
しあいに負けたから「もうやらない!」
は、もったいない!!!



間違えたところを、もう一度、といてみよう。

りかいど 理解度チェック

- ・ちゃんとおぼえているか、テストする!!

たとえば・・・

- ・きょうかしよや ドリルを^{つか}使って、^{もんだい}問題をと^き、丸つけをする。
- ・^{がくしゅう}学習したことを、だれかに^{せつめい}説明してみる。

本当に、おぼえられているか、たしかめてみよう。
まちがってもいいよ。^{いちど}もう一度、ただしくおぼえよう!



はんぷく 反復

• ^{な ん ど}何度もくりかえし、^{れんしゅう}練習する!!

たとえば・・・

- かん字を、なんども、ノートに書いて^{れんしゅう}練習する。
- ^{けいさんもんだい}計算問題をたくさんとく。
- さか上がりを、何回も^{れんしゅう}練習する。

ただやるではなく、

• かん字の^{い み}意味を考えながら、

• ^{けいさん}計算の^{しかた}仕方を思い出しながら

• さか上がりの^{うご}動きのポイントをかくにんしながら

などしながらくりかえし^{れんしゅう}練習すると、こうかアップ!!!



ねばりづよく、がんばろう!